

36. 広島市京橋川の水辺のオープンカフェに関する研究  
～出店要素に対する利用者評価～

04168002 栗原啓貴  
指導教員 市川尚紀 講師

水辺 オープンカフェ 出店要素 コンジョイント分析

1.序論

現在、広島市では質の高い水辺空間や魅力的な水都文化を形成することを目的とした「水の都ひろしま」構想をよりどころとし、市民から広くアイデアを求めながら様々な取り組みを計画的かつ効果的に進めるために実施計画を策定している。その中で河川環境の整備保全という観点からだけでなく、水辺を広く市民に開放するなど公共性も求められ社会実験として河岸緑地のオープンカフェを試みている。一応の成功をおさめているがその実験の検証は十分とはいえない。

そこで利用者と非利用者がオープンカフェのどのような出店要素に重きをおいて利用しているのか、また利用者に好まれる要素の組み合わせは何かを統計的に探ることによって、今後の立地選定において重視すべき出店要素に関する新たな知見を得ることを目的とする。

2.調査概要

2.1 アンケート項目と水準

各要素の水準選定理由を以下の表 1 に示す。店舗そのものに影響する要素として「メニュー」「日よけの種類」を、立地に影響する要素として「水辺からの距離」「季節」「利用時間」を設けた。そして直行配列表により 162 通りから 18 通りにしぼられたコンジョイントカードを作成した(表 2)。

2.2 アンケート手順

まず、コンジョイントカードの例を用いてカードの中で何を表現しているかを説明する。そして回答者の年齢と職業を、用意した選択肢から選んでもらう。次にダミー 2 通りを含む 20 通りすべてに「行きたい」「どちらとも言えない」「行きたくない」の 3 択で評価してもらう。

表 1 各水準設定理由

要素	水準	設定理由
メニュー	a. 食事で利用 b. ドリンクのみで利用	利用目的とほかの項目との重要度の違いを知るため
季節	a. 春・秋 b. 夏 c. 冬	年間を通して利用者がいなくなる月はないため、すべての季節を調査対象とした。
利用時間	a. 朝 b. 昼、c. 夜	時間帯での重要度を比較するため
日よけの種類	a. パラソル b. オーニング c. なし	日よけなしでも可能な場合、常設できない地区で簡易的な設置が可能になるため
水辺からの距離	A. 水辺に隣接 b. 水辺までに歩道を挟む c. 水辺までに歩道・緑地帯を挟む	水辺からの距離、人通りがどれくらい影響しているか調べるため

なお、オープンカフェという形態なら利用しないという

ものは無効票とした。アンケート実施概要を表 3 に示す。

表 2 コンジョイントカード 18 通り

No.	メニュー	日よけ	水辺からの距離	季節	時間
1	食事	パラソル	水辺に隣接	春・秋	朝
2	食事	パラソル	水辺までに歩道を挟む	夏	昼
3	食事	パラソル	水辺までの歩道、緑地帯を挟む	冬	夜
4	食事	オーニング	水辺に隣接	春・秋	昼
5	食事	オーニング	水辺までに歩道を挟む	夏	夜
6	食事	オーニング	水辺までの歩道、緑地帯を挟む	冬	朝
7	食事	なし	水辺に隣接	夏	朝
8	食事	なし	水辺までに歩道を挟む	冬	昼
9	食事	なし	水辺までの歩道、緑地帯を挟む	春・秋	夜
10	ドリンク	パラソル	水辺に隣接	冬	夜
11	ドリンク	パラソル	水辺までに歩道を挟む	春・秋	朝
12	ドリンク	パラソル	水辺までの歩道、緑地帯を挟む	夏	昼
13	ドリンク	オーニング	水辺に隣接	夏	夜
14	ドリンク	オーニング	水辺までに歩道を挟む	冬	朝
15	ドリンク	オーニング	水辺までの歩道、緑地帯を挟む	春・秋	昼
16	ドリンク	なし	水辺に隣接	冬	昼
17	ドリンク	なし	水辺までに歩道を挟む	春・秋	夜
18	ドリンク	なし	水辺までの歩道、緑地帯を挟む	夏	朝

表 3 アンケート実施概要

期間	2008 年 11 月 8 (土) 9 日 (日) 12 月 7 (日), 11 (木), 12 (金), 17 日 (水)
時間	9 : 00 ~ 19 : 00
場所	京橋川独立店舗型オープンカフェ 3 店舗利用者 店内 30 人 店外 30 人 平和記念公園利用者 非利用者 100 人 (無効票 3 票)
属性	職業 : 会社員、主婦、学生、その他 年代 : 10 ~ 29 歳、30 ~ 49 歳、50 歳以上
方法	面接方式

3.結果と考察

3.1 重要度比較

属性別重要度では、属性に関係なく「季節」の重要度が約 50~60%で最も高く、「日よけ」と「時間」が 13%~21%、「水辺からの距離」と「日よけの種類」は 3~9%、「メニュー」は約 3%であった。その要因として、屋外にあるオープンカフェが気候に左右することが考えられる。また、30 代と 40 代の「季節」に対する重要度が 64%占めており各年代より、他の年代よりも約 10%高かった。

A Study on the Sidewalk Café in the Hiroshima City Kyobasi Riverside  
～The user's evaluation to branch shop element～

AWARA hiroki  
環境設計研究室

また、10代と20代では他の年代に比べ、日よけの種類が少し高く出ている。その要因としてコンジョイントカードのデザインが影響したのではないかと考えられる。

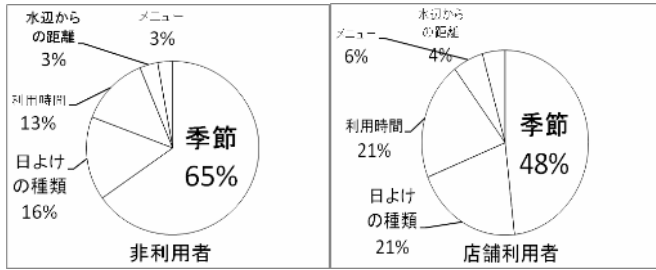


図1 店舗利用者、非利用者重要度

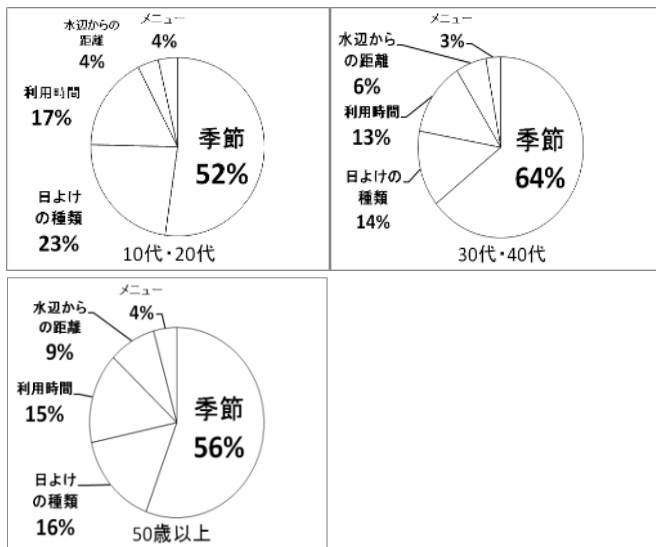


図2 年代別重要度

### 3.2 出店要素別にみた各水準の部分効用値

店舗利用者、非利用者に共通して「水辺までの距離」の要素で「水辺に隣接」の水準だけがプラスを示している。その要因として、コンジョイントカードに唯一表現されていない人通りが影響していると考えられる。

季節の要素では「春・秋」と「夏」の水準ともにプラスを示しているが「春・秋」の方が高いのは、夏の時期での気温、日差しが影響していると考えられる。しかし、「夏」の水準はプラスを示していることから利用者、非利用者ともにそれほど苦にしていらないと思われる。それに対して、冬の水準は全体を通して大きくマイナスを示しており、オープンカフェを利用しない水準として大きく影響していることが分かる。また、利用者は昼と夜の評価が高く、非利用者は朝と夜の評価が高い。

年代別では50歳以上が「メニュー」の要素で「ドリンクのみ」の水準が高く「食事」の水準が低いことからドリンクのみでの利用が望まれている。その要因として50歳以上の方にとってオープンカフェが休憩場所として使用したいという意識が高いからではないかと考えられる。また、年代にも関係なく冬の水準は全体を通して大きくマイナスを示していた。

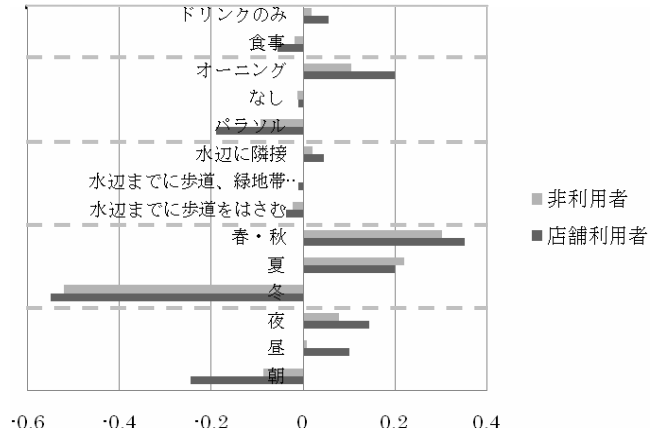


図3 店舗利用者と非利用者の部分効用値

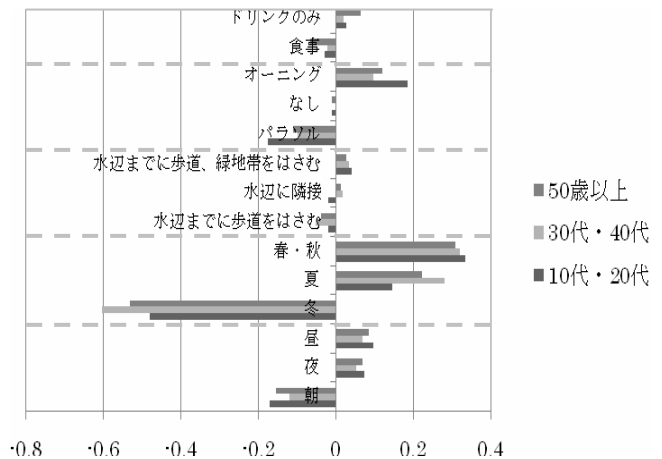


図4 年代別の部分効用値

### 4. 結論

水辺のオープンカフェの出店要素に対する利用者意識調査を行った結果以下の知見が得られた。

店舗利用者、非利用者の重要度は「季節」「日よけの種類」「利用時間」「水辺の距離」「メニュー」の順となった。年代を問わず「季節」「日よけの種類」「利用時間」が約80%を占めている。また、属性に関係なく「季節」の重要度が最も高い。さらに利用者、非利用者ともに冬の評価が最も低く、利用者は昼と夜の評価が高く、非利用者は朝と昼の評価が高い。また、「水辺までの距離」の要素で「水辺に隣接」の水準だけがプラスを示していた。

### 5. 今後の課題

今回の調査では「日よけの種類」の要素において、分析結果より大きくバイアスがはたらいたと考えられる。アンケートの精度を上げるためにコンジョイントカードの表現の仕方などの改善が必要である。

[補注]

注1. コンジョイント分析：商品やサービスの持つ複数の要素についてユーザーはどの点に重きを置いているのか統計的に探ることを可能にする手法。  
注2. 部分効用値：順位づけの際に各要素をどれだけ望んでいるかを数値で表したものであり、数値が高いほど望まれていることを意味している。